

地図の作成方法

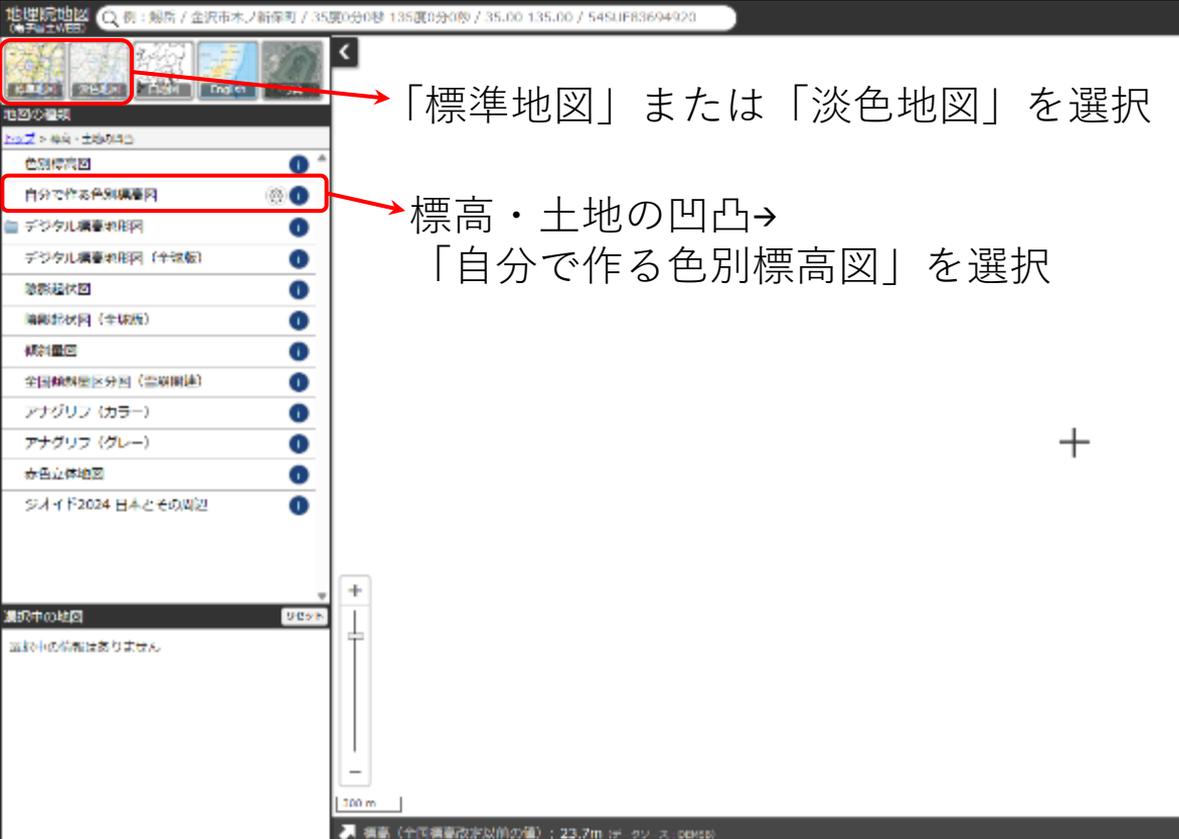
ワークショップ作業用地図
(国土地理院地図)

地図の作成方法（WS作業用）

1. 国土地理院地図のWebサイトにアクセス

<https://maps.gsi.go.jp>

2. 地図の選択

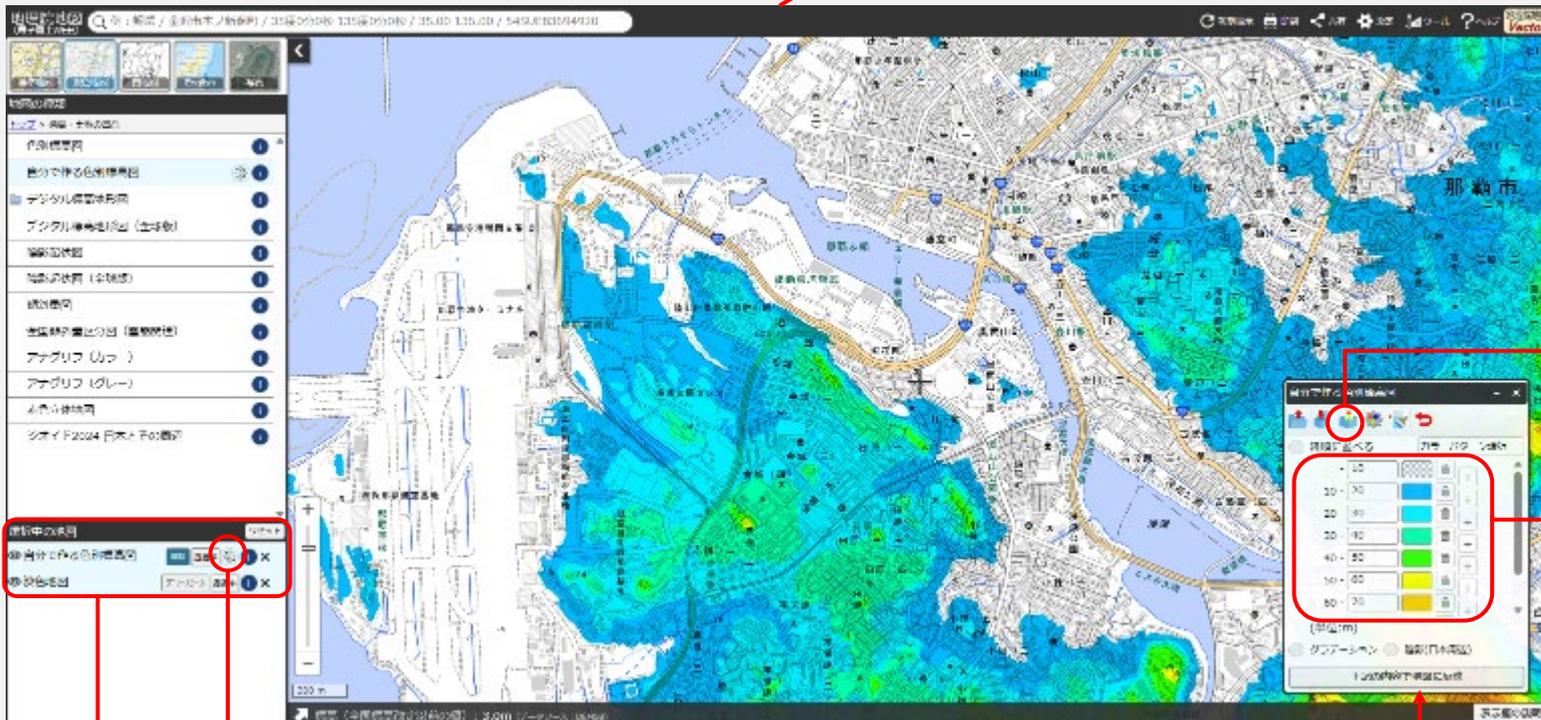


The screenshot shows the GSI Maps website interface. At the top, there are search and navigation elements. Below that, a row of map style thumbnails is visible, with a red box highlighting the 'Standard Map' and 'Light Color Map' options. A red arrow points from this box to the text: 「標準地図」または「淡色地図」を選択. Below the thumbnails, a list of map styles is shown, with a red box highlighting the 'Custom Color Elevation Map' option. A red arrow points from this box to the text: 標高・土地の凹凸→ 「自分で作る色別標高図」を選択. A plus sign (+) is visible on the right side of the map area. At the bottom, there is a scale bar showing 100m and a zoom control.

地図の作成方法 (WS作業用)

3. 地図のカスタマイズ

②地図の範囲をスクロール



⑤凡例を画像として保存

③「スタイル変更」を押すと凡例が表示される

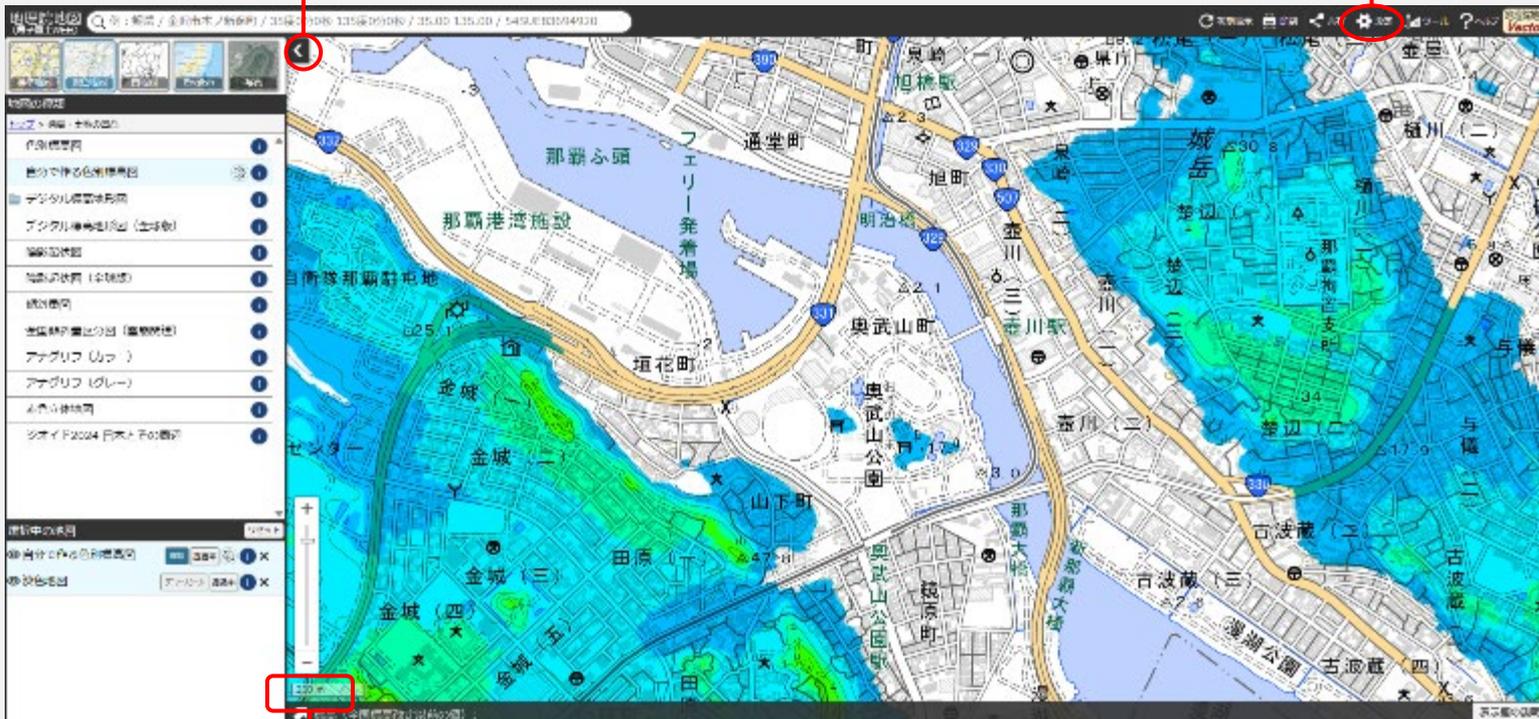
①「選択中の地図」 選択した地図が表示される

④凡例の数値と色をカスタマイズできる

地図の作成方法 (WS作業用)

3. 地図のカスタマイズ

③地図の範囲を最大化



①地図の縮尺を100mまたは200mにする

②「設定」→
中心十字線をOFF



地図の作成方法 (WS作業用)

4. 地図の印刷

①画像を画面コピーしてWordまたはPowerPointに貼り付ける



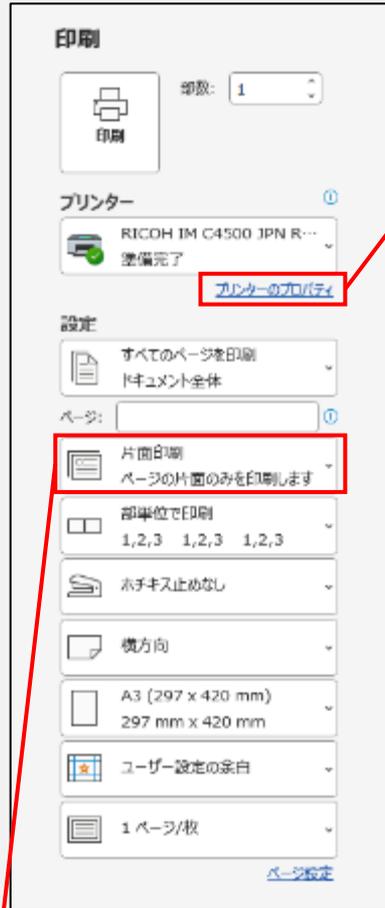
②凡例画像の貼り付け (縮尺を見えるように)

③「スタート地点」

④「移動時のルール」

地図の作成方法（WS作業用）

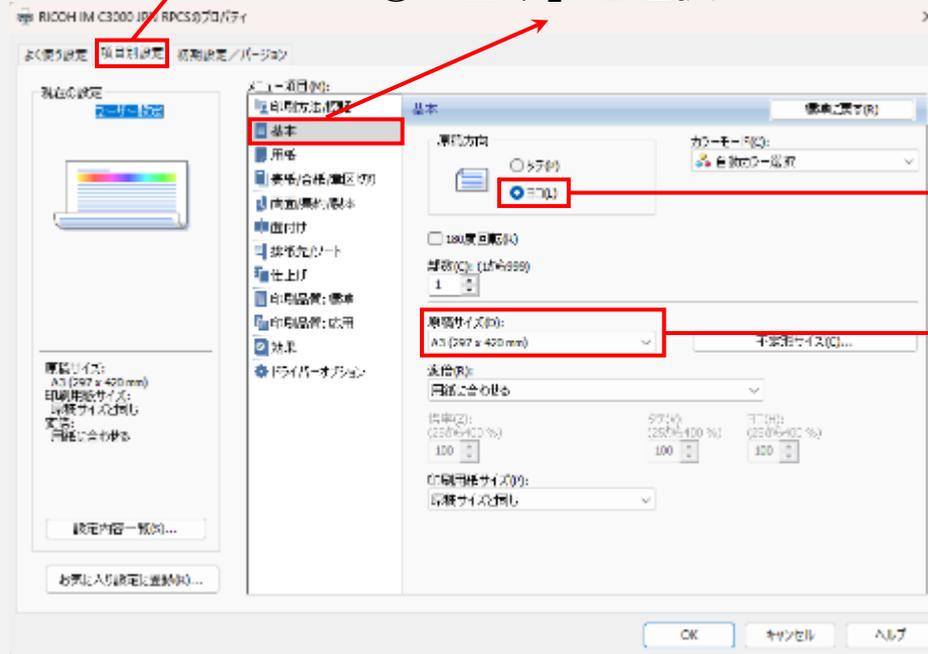
4. 地図の印刷（RICOH IM C4500の場合） ※お使いのプリンターの出力方法に従って印刷してください。



② プリンターのプロパティ

③ 「項目別設定」を選択

④ 「基本」を選択

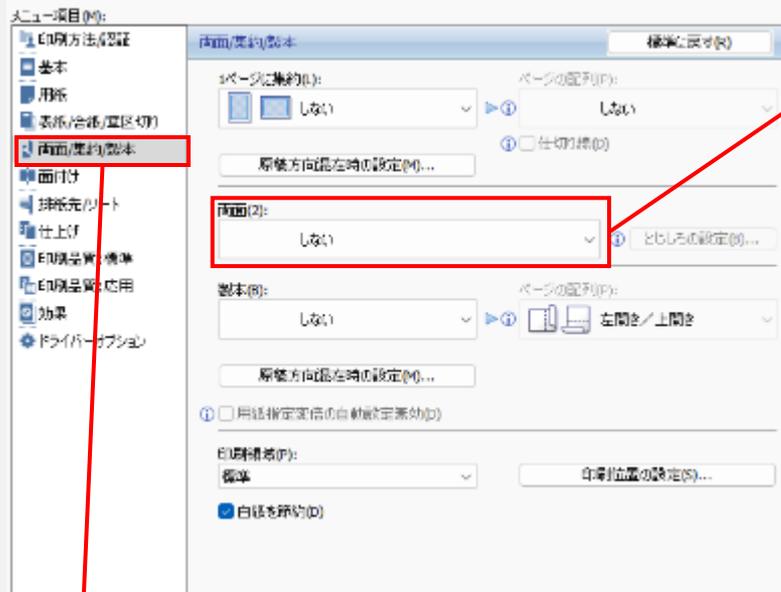


⑤ 「A3 ヨコ」を選択

① 「片面印刷」を選択

地図の作成方法（WS作業用）

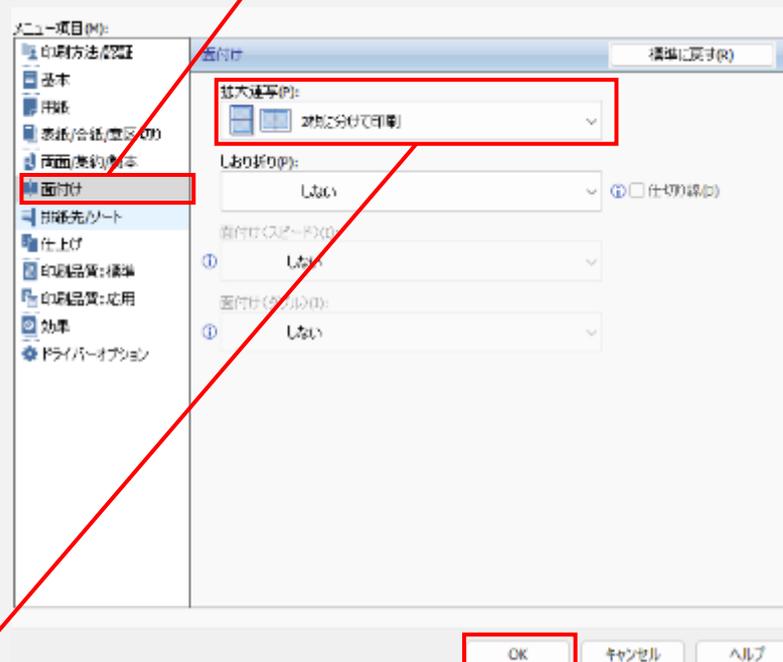
4. 地図の印刷（RICOH IM C4500の場合） ※お使いのプリンターの出力方法に従って印刷してください。



①「両面/集約/製本」を選択

②両面は「しない」を選択

③「面付け」を選択



④拡大連写は「2枚に分けて印刷」を選択

⑤「OK」を押して印刷へ

地図の作成方法

**グループ発表用地図
(重ねるハザードマップ)**

地図の作成方法（グループ発表用）

1. 重ねるハザードマップのWebサイトにアクセス
<https://disaportal.gsi.go.jp/maps/>

2. 地図範囲



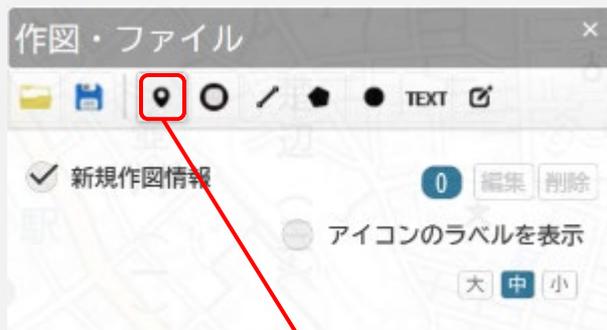
→ 地図範囲をスクロール

地図の作成方法（グループ発表用）

3. マーカーを地図上に表示



①「作画ツール」を選択



②「マーカーを追加」を選択



③アイコンをクリックしてマーカーの種類を選択

地図の作成方法（グループ発表用）

3. マーカーを地図上に表示



① マーカーを置くポイントをクリック



② マーカーを置いた後に「確定」を選択→次のポイントにマーカーを置く→「確定」を選択・・・を繰り返す

③ すべてのマーカーを置いた後に「終了」を選択

地図の作成方法（グループ発表用）

3. マーカーを地図上に表示



①「津波」を選択すると浸水想定区域が表示される

②避難経路および浸水想定区域の重ね合わせた地図をグループ発表に活用

地図の作成方法（グループ発表用）

4. その他（地図のカスタマイズ）



「すべての情報から選択」を選択すると情報リストが表示され、緊急避難場所、災害リスク情報、浸水想定区域、標高など選択表示が可能となる。